

※引き続き、新型コロナやインフルエンザの感染防止へのご協力をお願いいたします。

※「自問タイム」として、「下野新聞読者登壇」(10代の声)への投稿に挑戦しています。是非ご覧ください!

→これまで、都賀中生の70作品が掲載されています。(1月末現在)



学校だより 若竹

学校教育目標「自ら学び考え行動する生徒」
スローガン～やる気・笑顔・感謝～



2月号 (第21号)

令和6年2月6日

都賀中学校長 倉井 誠(文責)

冬から春へ...月差しも少しずつ強くなり、春の匂いがしてきました...

1月20日の「大寒」が過ぎ、2月3日は「節分」、そして、その翌日は「立春」でした。一年で最も寒いと言われるこの時期には、「寒仕込み」「寒稽古」という言葉があります。まだまだ、新型コロナウイルスやインフルエンザ感染症の心配がある中ですが、何とか乗り越えてきました。

「立春」は、冬と春の分かれる「節分」の翌日で、「寒さが明けて、これから春に入る」という日です。しかし、まだまだ寒い日も多く、春が待ち遠しく感じられます。それでも花の蕾は固いながらも確実に膨らみ始め、春に向けた営みが随所で見られるようになってきます。

いよいよ3学期も中盤にさしかかり、学校では、近づいている春の便りとともに、本年度の締めくくりと新年度に向けての準備で忙しい中にも希望が膨らむ時期を迎えています。

3年生は、多くの生徒が私立高校の入試を終え、県立高校の受検に向けた学習、そして卒業に向けての準備も始まろうとしています。2年生は、立志記念スキー宿泊学習に一部変更もありましたが、大変りある行事となり、志を新たにもつことができたようです。また、1年生も先輩になることを意識しながら、その心構えや準備をしています。

まだまだ新型コロナウイルスやインフルエンザの心配もあり、油断が許されない状況ですが、今年度の締めくくりや次年度の準備に向けて、それぞれの学年にとって、充実した学校生活を送らせていきたいと思えます。今後とも、本校教育に対しまして、温かいご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

令和5年度学校評価のまとめ

先月の学校だより1月号で、「学校評価」(概要)をお知らせしましたが、その結果を受けて、成果と課題及び今後の取組について、以下のようにまとめました。

本校教育のますますの充実のために、職員一丸となって真摯に取り組んで参ります。今後とも本校教育に対しまして、ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

1 成果

○自ら意欲をもって、学習に取り組む生徒

落ち着いた態度で授業に臨んでおり、主体的、協働的な学びが自然とできている。また、ICTを効果的に活用し、生徒が「できた、わかった」を感じられるように努めている。

○優しい気持ちを持ち、人に寄り添える生徒

相手の立場を理解し、思いやりの心をもって人に接している。このような優しい気持ちがいじめを許さない学校づくりにつながっていると思われる。

○常に元気で活発な生徒

さわやかなあいさつ、場に応じた言葉遣い、学校のきまりや交通ルールの順守など、三者とも高評価であった。また、学校行事に主体的に参加する姿勢は、誇る事ができる本校の特色といえる。

○地域連携

学校だより等、各種便りを定期的に発行することができた。また、ホームページのアップは全職員による輪番制を原則としながら、担当以外でもアップすることができた。



2 課題

○自ら意欲をもって、学習に取り組む生徒

昨年度より取り入れた家庭での「2・2・3学習」は、三者とも低い評価となった。「量より質」の学習の在り方を考えていかねばならない。

○優しい気持ちを持ち、人に寄り添える生徒

悩みや相談への対応については、保護者の評価がやや低い。生徒と保護者が安心、納得できる対応や支援が求められる。

○常に元気で活発な生徒

校内外で大きな事故はなかったが、生徒の交通マナーについては地域からの苦情が複数あった。交通ルールに関する項目の評価では、教職員と生徒に差がみられる。生徒の意識改革と行動改善を促す取組が必要である。

○地域連携

